



広島城北高等学校サッカー部OB会
広島市東区戸坂城山町1-3 広島城北学園内 〒732-0015
電話 082-229-0111 FAX 082-229-0112



繋がり

12回生 新川 博之

今年の3月で退職しました。(定年までには、もう1年あったのですが)今までの人生のほとんどをサッカーに携わった幸せ者です。小学校4年から始めたサッカーを現役で30歳過ぎまで、その途中からは、公立中学校の教員になり指導者として約50年間サッカーに関わってきました。その中の高校の3年間、1974(昭和49)年、城北でお世話になりました。ちなみにカープが初優勝した頃です。部員数も少なく練習も満足にいくものではありませんでした。私はキャプテンもありませんでしたが、なかなかみんなをまとめることも出来ないのが現実でした。顧問の田辺先生、井上先生には、お世話になりました。また、当時、休日の練習には東洋工業(現マツダ)蹴球部(現サンフレッチェ)OBの岡光龍三さんが指導に来られていました。どのような経緯かは分かりませんが、日本リーグで活躍された方が高校生を指導されるのは、珍しい事であったと思います。高校卒業後も教育実習や合宿などでサッカー部の様子を観ることが出来ました。大学を卒業した年の夏の合宿(たしか加計高校芸北分校グラウンド)に参加しました。その時のチームが選手権大会ベスト4に入り、職場でテレビ中継を見たのを思い出します。その後も私は、指導者として最上段グラウンドに中学生を連れて行き、練習試合をさせていただきました。東区の中学校に勤務していた時には公式戦でもよく最上段に行っていました。初蹴りにも何度か参加させていただきました。ここ2年間は3月に招待試合(SAIJODAN CUP)を行っていたいただき参加していました。最上段グラウンドに行くのに最近バス通りからの道ではなく、団地の中の道路を通り校舎を見ることもなくグラウンドに行っていました。この3月に久しぶりに、校舎のほうに歩いてみました。私が在籍した当時の面影は全くなく、私



たちが使っていた校舎はすべて建て替わり、まるで大学のキャンパスのように様変わりしていました。プレハブの体育教官室と部室が鉄筋の部室に！年配のOBの皆さん、お近くに来られた際は一度見に行ってください。サッカー部の練習も見に行ってください。環境も整って、指導体制も宮本先生を中心にまとまっています。近いうちにいい結果が出るのではないのでしょうか。

サッカー部のこれから

広島城北高校サッカー部OB会長 19回生 吉川 英司

本当に最近「寝不足」が続いています。サッカー関係者の皆様も翌日の仕事の段取りとの戦いで夜中の試合を見ようか、寝ようかとのジャッジに悩んでいる事と察します。この会報誌は日本がグループリーグ突破した翌日に忸怩たる思いの中で書いております。この試合の後半最後の15分の西野監督の判断を選手へ伝達するべく投入された、長谷部主将のミツシヨン。そしてそれを見事にラフプレーする事なく選手達自身の本意とは違ったかもしれませんが、見事やり通した選手達。結果二次リーグ進出。皆様が西野監督の立場ならばどう判断をしたか？前の試合の先発メンバー6人替えるべきであったか？など、また機会があれば議論してみたいものです。願いはW杯初のベスト8へ進出して欲しいなあと切に願っております。共に応援しましょう。

今年の現役はインターハイ予選のグループリーグで敗退してしまい、3年生最後のインターハイでしたが決勝トーナメントに進出出来ず。グループリーグ初戦で海田高校にPK負けしたのが原因でした。私も当然試合見学に行きましたがチャンスは我が広島城北の方が多く何度かの決定機を決めきれなかったのが悔やまれる試合でした。3年生達は高校集大成がこの試合だと本当に悔いが残るので、はと今でも思います。若い卒業したOBなら、良いアドバイスが後輩たちに出来るのではないですか？是非時間を創出し話をしてあげてほしいものです。



そういえば、少し前の中国新聞に「広島城北高校サッカー部」が毎年開催しています。小学生(4年、6年生の男女対象)サッカースクールの記事が出てました。この活動も地域社会への活動とともに将来、最上段グラウンドでボールを蹴りたいと思ってくれる城北のファンづくりにつながっています。常々言っておりますが、この最上段グラウンドの芝生化を実現するにあたり、本当に様々な形で各自スタッフ(現役含む)が意識して活動しております。

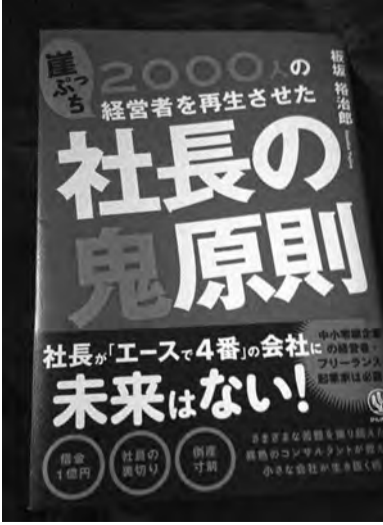
変わらないもの

32回生 長内 陽知

最上段OBのみならず、今にも。史上最低の10番ですw素晴らしい通り名ですよね。OB会報誌で一筆かけること本当に嬉しく思います。機会を与えてくれた宮本先生ありがとうございます。

自分は光回線・格安SIMなどのインターネット事業をしている通信会社で営業をしています。今年で40歳なので最上段でボールを蹴っていたのは20年以上前になります。現役時代は公式戦の1次リーグを突破できなかった。そんな弱小チームでした。先日、出張がてら20年ぶりに最上段を訪れました。戸坂の町の下から一歩一歩踏みしめて坂道を上り、下校中で戸坂の坂を降る生徒と挨拶を交わし、職員に職務質問でも喰らうんじゃないかとドキドキしながら校門をくぐり、自分が通っていた頃の校舎とは一新した近未来の校舎を過ぎて、体育教官室・部室・野球コート・テニスコートを横目に懐かしの最上段に到着しました。20年前と変わらず少し斜に構えて選手の練習を見守るキュウポン

しくやっています。この活動も試合相手の子供達を広島城北学園へ行かせてみたいと思っ頂けるよう、フェアプレーの精神でウエルカムの気持ちを前面に出し運営をしております。広島在住OBいましたら是非参加してみてください。遠慮は不要です。このOBクラブも全国へ散らばった皆さんが広島へ帰って来た時「ボールを蹴る場」があってもいいのではないかとこの気持ちも込めてます。運営は大変ですがスタッフが良くやってくれており感謝しております。最後になりますが、初蹴りの後の新年会で毎回大変騒がしくれます、サッカー部の後輩の「坂坂裕治郎」君が念願叶い本を出版しました。この本が売れた印税は「最上段グラウンドの芝生代金」へ寄付しますとの事。是非皆様「社長の鬼原則(写真)」を友人知人へ広めてください。よろしくお願ひします。では、また来年1月3日の最上段グラウンドで元氣にお会いしましょう。



と宮本先生が。10代の数年間、時にタイガーと言いながらもサッカーしたことが鮮明に思い出されます。青春で何か「最上段」に登る、そこにキュウポンがある。ですよね。最高です。5月の最上段は緑溢れており、恵まれた環境でサッカーができてたんだなと感じました。最上段の後に宮本先生に近未来の校舎をアテンドしていただき、黒瀬先生や岩井さんにも会って話をすることができてとても有意義でした。黒瀬先生や岩井さんと自分が話す、やはり宮本先生は一歩引いて斜に構えて多分嬉しそうに見守ってくれていました。次は泊まりの広島出張を企てて、宮本先生と膝を突き合わせてゆっくりと酒を酌み交わしながら自分の選手育成論をぶつけてみるつもりです。

OBのみならず、頻りに最上段を訪れる方もいらつしやれば、なかなか訪れることができていない方もいらつしやいますよね。中には私の様に20年離れてしまった方もいらつしやるでしょう。長い間離れてしまったOBこそ是非「最上段」に登る、そこにキュウポンがある。これを再体験してみてください。2019年初蹴りに行きますので、自称史上最底の10番という方がいたら、どちらが史上最底か語り合ひましょう！



伝えたいこと

52回生 森本 大護

皆様、こんにちは、52回生の森本大護(モリトダイゴ)と申します。この度はOB会報誌を執筆させていただきました。機会をいただき嬉しく思っております。拙い文章ではありますが最後まで目を通していただくと幸いです。

最初に少し自己紹介をさせていただきます。僕は広島生まれ広島育ちで中高を男子しかいない最悪で最高なこの広島城北学園で過ごし、1年間の浪人生活を経て今は専修大学商学部マーケティング学科の1年生として勉学に励むとともにサークルなど楽しい大学生活を送っています。

今回OB会報誌を執筆させていただくうえで僕は現役のみなさんに2つのことを伝えたいと思います。

1つめは、何かを継続して続けることです。みなさんはどうして沢山ある部活の中からサッカー部を選んだのでしょうか？理由は様々だと思います。僕の理由はサッカーが心の底から好きだったからです。幼稚園・小中高とサッカーをしていて辛く、苦しいことは沢山ありましたが嫌いになり辞めたいと思つたことは一度もありません。みなさんもサッカーを選んだ理由の根本には好きという気持ちがあると思います。僕の経験上好きなことなら時間を忘れてしまうほど続けることができます。「継続は力なり」という言葉があります。それがまさにその通りです。続ける事に意味があります。毎日継続する事、結果は見えづらく途中で投げ出したくもありませんがとて

2つめは、チームメイトの存在です。僕は中高とキャプテンをさせていたいただきました。初めての経験で何をどうしたら良いのか全く分からずキャプテンを任せられたからには自分が全てをしなければならぬと思ひ行動して行きました。するとよく中学の頃チームメイトは「お前は大護の金魚の糞か、考えて行動しろ」と監督に言われることが沢山ありました。この頃はチームメイトに役割を振り分けるほどの力量もなくどうすることもできませんでした。そして高校になり僕が新人戦の前に怪我をしてチームを長期離脱したことがありました。すると皆がチームのために考え・動き総体に向けていっそう一致団結しベスト8まで行くことができました。この時に僕がキャプテンだからという責任感から全ての

役割をしなければならぬと思うことでチームメイト皆の可能性を潰していたと感じました。今でも少しだけ後悔しています。それでも皆は「やっぱキャプテンが大護で良かった」と言ってくれます。苦業を共にした城北の仲間は一生涯の宝だと卒業し感じます。たまには喧嘩しぶつかることもあるとは思いますが現役のみなには今仲間といれる時間を大事にして欲しいです。きつと今は分からないかもしれませんが、卒業すると実感できると思います笑

現役のみなには仲間と共に1日1日を大切にし、悔いのない高校生活を送って欲しいです。親や周りの目の方々への感謝も忘れないでください。1人では何も出来ません。遠くからではありませんがみなさんの活躍と健闘を祈っています。僕も城北魂で頑張りま

最後にありがとうございました。このような機会をくださり感謝しております。目を通して下さりありがとうございます。

チャレンジ

49回生 森 貴博

初めまして。49回生の森貴博と申します。まず最初にOB日記を書かせていただくにあたって、このような貴重な機会を与えてくださった宮本先生、岩井先生にお礼申し上げます。

私は現在、専修大学文学部英語英米文学科に通っている4年生で、この度教育実習生として城北に帰って参りました。

このOB日記を通して伝えたいことは、「続けることの大切さ」です。

現役時代、私はゴールキーパーとしてプレーし、トップとライノスに掛け持ちしていました。トップ・ライノスに関わらず試合に行くときは、いつも道具を運んでドリンクを作つて片づけをして。気が付くと私の高校サッカー生活は終わっていました。いつしか友達からは、「今日は右サイドベンチ？左サイドベンチ？」といじられていたのも今となっては良い思い出です。

そんな私がなぜ、3年間ほぼ毎日休むことなく城北で高校サッカーを続けることができたのか。その要因は中学時代にまで遡ります。

私は中学時代にも城北サッカー部に所属していたのですが、中学2年生の秋の大会を迎える直前で辞めてしまいました。その当時の私は目標がなく、なんとなく学校生活を送り、勉強もサッカーも全て中途半端でとにかく何に対してもやる気がありませんでした。そしてなんの目標も無いまま高校に入学しました。しかし、そんな当時の私の中にはどうして引つかかっているものがありました。「サッカーに対する未練」です。

カーが上手ではありません。(笑) しかし、そんな私でもやはり中学時代にサッカーを途中で辞めてしまったことに対する後悔の念がありました。そして何より、辛いことから逃げ出してしまった中学時代の自分に対しての苛立ちや情けなさも同時に感じていました。そのような背景から私はもう一度サッカーがしたいと思い、城北高校サッカー部に入学しようと思つて決まりました。

もちろん、当時多くの批判もありました。「中学途中で辞めたくせによく戻つてこれだな。」「ほんとに戻つてくるのかよ。」「そういう風なことを言われていた、というのを耳にしたこともあり。とても辛かったです。だから入学しようかどうか、とても悩みました。それでもやはり、自分の気持ちに嘘はつけませんでした。

「またみんなと一緒にサッカーがしたい。」だから私は、自分のわがままを通してまで入部した分、少しでもみんなの役に立ちたいというただその一心で高校3年間サッカーを続けてきました。ほぼ毎日部活に行き、当然辛いこともたくさんあつたし、「また辞めてしまおうかな」と思つたことも正直ありました。それでももう一度続けるんだと自分で決めたので、最後までその決意は変わりませんでした。

そして高3の総体メンバーを選ぶために行つた選手達一人一人の投票。そのメンバー一覧にこう書いてありました。

「21番 森貴博」

試合にたくさん出ていた訳ではありません。サッカーが上手だった訳でもありません。それでも、私が高校3年間でやってきたことが決して間違っていないかと思つた瞬間でした。

こんなわがままな自分を受け入れてくださった先生方、先輩方、同級生、後輩達、本当にありがとうございます。

広島城北高校サッカー部での3年間を誇りに、明日からもまた顔晴ります。



QPONのひとり言

SAIJODAN SPIRIT

8年前から行っているサッカースクールで昨年からはじめたサッカー部OBの指導する中学校に参加していただく大会「SAIJODAN CUP」で昨年、発足したOBチーム「広島城北クラブ」の試合でそして、毎年恒例の正月三日に行う初蹴りでたくさんの人たちが最上段グラウンドに集います。

我々は、広島を代表するようなBIG CLUBではありませんが、最上段に集う人たち、最上段と繋がる人々を大切にしてきました。その積み上げの中で多くの人たちと繋がり、クラブ自体も、そこに集う人たちも成長し、我々の目指す方向が少しずつ見えてき、そこへ向かって一步一步前進してきました。

こんな事を書くと、ここ2年間結果の出ない現役チームの言い訳に思われるかも知れませんが...

結果の出ないのか「何が足りないのか?」「どうすればいいのか?」考えた末の答えも『広島城北らしく』

我々の原点はすべて『最上段』にある

これからも勝ちにこだわり勝利を目指すのは勿論のこと

広島城北サッカークラブの進む道を間違えないように

広島一のBIG CLUBを目指すのでなく

『広島一心のあたたかい人たちが集うクラブ』を目指していきます。



宮本 誠 (19回生)

近況報告

みなさんこんにちは! 24回生の岩井竜彦です。

OBのみなさんは、「広島城北サッカースクール」をご存じですか?

高校生の現役サッカー部員が、最上段グラウンドで小学生にサッカーを指導するという企画で、2011年にスタートして今年で8年目を迎えました。

参加してくれる小学生も年々増えてきて、今年は6月の木曜日(全3回)に開催しましたが、毎回60人近い子どもが参加してくれました。

初めのうちは、指導する高校生もおっかなびっくり、という雰囲気でしたが、毎年指導する高校生が入れ替わるにもかかわらず、最近では高校生の指導(というよりも子どもとの接し方)も大変上達してきました。

そしてこのスクールの参加者で、広島城北に興味を持って、入学した生徒も少しずつ増えていきます。

宮本監督の強い思いでスタートしたスクールですが、回を重ねる毎に様々な積み上げがあり、参加してくれる小学生や保護者、そして部員もスタッフもみんな笑顔になれる、いまや広島城北サッカー部の大切な文化のひとつになりました。

このような活動を通じて、これからもみんなが「広島城北らしさ」を育てていきたいと思つています。今後とも応援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

広島城北中・高等学校サッカー部 岩井 竜彦 (24回生)